

## 第6回伊賀市文化財保存活用地域計画協議会 会議録

日 時 令和6年2月13日(火) 午前10時から11時30分まで

場 所 伊賀市役所5階501会議室

出席者 菅原洋一委員(会長)、長谷康弘委員、静永史範委員、金山 修委員、  
中山和光委員、岩佐絹枝委員、稲垣八尺委員、服部保之委員、峠 美晴委員、  
伊藤裕偉委員

欠席者 福田良彦委員(副会長)、尾登 誠委員、西嶋克司委員

事務局：滝川教育委員会事務局長 笠井文化財課長、福田主任、森川主任

傍聴者 なし

事務局：会議出席お礼、伊賀市文化財保存活用地域計画協議会設置要綱第6条2項により、過半数の出席により会議成立、資料確認、協議会設置要綱第6条により、会長が議長となり、菅原会長に進行を依頼。

あいさつ

菅原会長

### 1. 報告事項

#### (1) 伊賀市文化財保存活用地域計画の認定について

《事務局から資料1を用いて、認定について説明、質疑応答は特になし》

### 2. 協議事項

#### (1) 伊賀市文化財保存活用地域計画概要版の作成について

《事務局から資料2を用いて事務局案を説明、質疑応答は以下のとおり》

委 員：配布部数を教えてください。

事務局：1,000部です。市内自治協や関係機関に配布予定です。

委 員：1,000部では少ないか。文化財について、広く市民に知ってもらう機会なので、例えば、次年度増刷するなど検討いただけたら。

文化財をもっと親しみやすくするために、キャッチコピーなどを入れて分かりやすく、伝わりやすいものにしてはどうか。5頁は「基本方針」があつて、やるべき方向性が示されているので、「課題」の記載は必要ないのではないか。また、基本方針の後ろに、取り組み主体を入れるべきである。誰が主体となるのかを明示することで、自覚が生まれるのではないか。

- 委員：地域計画をホームページに載せるなら、その URL か QR コードを載せたほうがよい。写真についてはキャプションを入れたほうがよい。
- 委員：全体的に文字が多いので、もう少し文字数を減らせないか。例えば7頁の主な取り組みについて、タイトルと内容と重複している文言が多いので、そういった部分を削ってはどうか。「仏神崇重の国」とあるので、仏像の写真は要らないか。
- 委員：子どもたちにも読みやすいように、ルビまではいらないが、タイトル部分に分かりやすいコピーなどを入れるとよい。
- 委員：2頁の「近畿地方との結びつきが強い…」とあるが、もともと近畿地方なので、「奈良・京都など」としたほうがよいのではないか。
- 議長：他にご意見ありませんか。それでは事務局のほうでいただいた意見について整理し、修正いただけたらと思う。修正版を見せていただくことは可能ですか。
- 事務局：本日いただいた意見について整理し、修正版をメールで送付します。それからまたご意見があればいただき、最終的には委員長にご確認いただけたらと思う。

## (2) 伊賀市文化財保存活用地域計画進捗管理について

《事務局から資料3、4を用いて事務局案を説明、質疑応答は以下のとおり》

- 委員：文化庁から進捗管理については何か指導・助言はあったのか。
- 事務局：8月に開催された連絡協議会では、文化庁から進捗管理についての指導はなく、各市町の事例報告を伺った。進捗管理シートを作成している市町もあれば、シート自体作成していないところもあったが、当市ではシート作成により進捗状況を把握する方法で考えている。
- 委員：シートのフォーマットはどの事業主体も同じなのか。このシートで指標や目標はあきらかになるのか。「計画の内容」の部分で計画の位置づけをきちんと載せたほうがよい。進捗管理について、例えば、文化振興ビジョン、プランについては、年1回意見交換会を行っている。実施した事業については、各実施団体で事業カードを作成いただいている。地域計画についても、極力情報を共有できるような実施体制を作っていくほうがよい。
- 委員：庁内でも各種個別事業シートなどを作成しているが、行政でもなかなか大変であるので、所有者さんや市民団体などはもっと負担が大きいと思うので、実施した方が提出しやすいように、簡単に記載しやすいものにするべきである。
- 事務局：指標や目標といった記載の仕方は市民や自治協の方には伝わりにくいので、何か事業を実施いただいたときに書いてもらいやすいシートを検討したい。
- 委員：所有者も何か事業を実施したら毎年この事業シートを提出しなければならないのか。所有者全員に個別シートを送付するのか。
- 事務局：しなくてはいけないではなく、ご協力いただけたらと考えている。シートの提出に

ついても、ご協力いただけるところからお願いできたらと考えている。評価をするためではなく、提出いただいたシートから総括表にデータを反映させ、共有し、課題を洗い出し、次の取り組みにつなげるために実施するものと考えている。

委員：評価ではなく、当該年度にどういった事業を実施したのかといったことが把握できたらいいと思う。

事務局：計画は作って終わりというものではなく、その後の進捗管理が重要であり、その意識づけとしてシートを作成していただくことにより、どんな問題があり、課題があるということをみんなで共有することができると考えている。

委員：取り組みについて、主体（所有者）に丸投げするのではなく、協力して実施していただけるような形で進めていただけたら。

委員：計画は作って終わりではだめ、という声が協議会から出たため、現在に至っていると思う。委員として計画の実施を見守りながら進めていく必要がある。地域や所有者さんにシートをお渡しするだけでも、意識づけになってくると思うが、どういう形のシートであれば出してもらいやすいかなど検討する必要がある。

委員：シートをもらえれば、課題などを具体的に記載して提出できるのでよいと思う。

委員：情報共有のためのシートの報告ということであれば、その内容をフィードバックできるような仕組みを考えてほしい。

議長：「個別シート」の名称は、役所的でわかりづらい。「文化財保存・活用実態カード」のような感じにしてはどうか。所有者さんは何に困っていて、どう考えているかを把握する必要がある。また、作成する負担が少ないように考える必要がある。どの取り組みがどこまで進んでいて…という把握については、その次の段階になるのではないかと考える。文化財所有者の全数把握も目指すべきかと考える。いずれにしてもこの個別のシートは重要なものとなってくるので、事務局のほうで意見を集約して検討してください。運用するためのシートの情報と共有するための情報は分ける必要があるのではないかと考える。

委員：調査・研究だけでなく、活用についてももう少し行政のほうでも力を入れてもらいたい。

事務局：あくまでサンプルである。シートについてもご意見を集約してまたお示ししたいと考えている。

議長：シートを文化庁に提出することはありますか。

事務局：ありません。

委員：伊賀市の文化財について、もっと知ってもらう必要がある。伊賀の魅力を発信できるような。

委員：市広報で文化財について紹介されているが、見ない方もいるので、例えばケーブルテレビで文化財の紹介をするなど、積極的に情報を発信してもらえたらと思う。

委員：例えば文化財をめぐるツアーなどを、行政にも協力を得て所有者と民間のコラボで

実施できたらよいのではないか。

委員：取り組み主体となっている事業主体の中でも、対応できる方とそうでない方、やりたくない方ではなく、やりたくてもできない方がいる。そういった方の把握なども重要である。

委員：シートの事業主体について、事業の主体というよりも、深く関わっているところはどこかといった考え方で、シートの作成などを実施していけばよいと思う。

議長：他にご意見ありませんか。たくさん委員さんからご意見を頂戴したが、このシートについては今後の進捗管理について非常に重要なものとなってくるので、事務局のほうで意見を整理し、お示しいただけたらと思う。また、シートによりいただいた情報に関して、共有できる情報について、年報に記載するのか、ホームページに掲載するのか、または冊子などを作成するのか、どういう形で還元するのかといったことも検討いただけたらと思う。それでは、協議事項に関してはここまでとさせていただきます。

### 3. その他

《今後の冊子及び概要版など印刷製本・発送のスケジュールを事務局より説明》

委員：シンポジウムなどの予定はないのか。

事務局：次年度には予定はありませんが、ご意見として頂戴します。

委員：こういった計画を知っていただくチャンスですので、ぜひご検討ください。

議長：ご質問等ございませんでしょうか。

それでは進行を事務局にお戻しします。

滝川事務局長

あいさつ